
嵐の向こうに

柳 大知

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嵐の向こうに

【Nコード】

N4076F

【作者名】

柳 大知

【あらすじ】

TVに映されるなんでもない砂嵐、だがそこからメッセージが…

男は6畳一間の古びたアパートの一室に帰宅した。

日付は一時間前に変わっている。

コンビニで買った弁当をテーブル代わりの低い椅子に寄せ、かなり遅い夕食を取り出した。

ふと見れば、斜め前にある小さなブラウン管TVに弁当を食う自分が映っている。

別に自分の顔がどうこういうのではないが、何ともいぬ虚しさ感じ、男はTVをつけることにした。

この時間でもスポーツニュースくらいはやっているだろう。プロ野球の結果でも見ようか：

だがTVをつけ映ったのは黒と白の画面、いわゆる砂嵐だった。

24時を過ぎてはいるが、放送機器の点検などでTVのプログラムが終わるにはまだ早い。

原因はこのTVだった。

TVをつけると番組の音も聞こえず砂嵐のみ、だが数分放っておくと突然番組が映るのだ。数ヶ月前から度々こんなことがあった。

TVの後ろにある配線は問題ないようでどうやら内部の異常らしいが、かといってそれだけのためにTVを買い換える余裕は無く、見たい番組がやっていることに、ふと気づいたとき以外は別段問題なかったので買い換えようという気もなかった。

だが、今日はどうもおかしい、男はスポーツニュースを見ながら弁当を思っていたが、もう食べ終わってしまった。これまでなら、とつくに映っていていい頃である。なのにまだ砂嵐のままだ。

試しにチャンネルを変えてみたが、効果は無し。そのとき男は思い出した。

日付が変わって日曜日：深夜1時30分：見たい番組があったのだ。時計を見ると番組開始まで後5分、それまでにTVに何とか映ってもらわないといけない。

男は、チャンネルを素早く変え、配線の確認、最後は漫画でありそうな叩けば直る説も駆使したがすべて無駄で、何も映らぬまま番組開始時間は1分、また1分と過ぎていった。

番組開始から7分過ぎたところでついに男は諦め、狭い部屋に寝そべり体を伸ばした。

…映っていれば、アイドルが水着ではしゃぐ姿が見れたのに…

男はそんな番組が見たくて必死になっていたのである…

だが何気なく男がTVの砂嵐を見ると、何故か画面から違和感を感じた。

普通ならTVの砂嵐を見たところで、そこから砂嵐だということ以外に何も感じることはないだろう。

だが、男は砂嵐の中に文字が浮かび上がっているのを発見し、不思議に思いそれを書き記した。

8 - 2 1 - 5 . 1 - G 男がメモに書き終えた瞬間、画面がパツと変わり、そこには水着のアイドルが映っていた。

だが男はさっきまで必死に見ようとしていたものが映ったにも関わらず、画面ではなく自分の書いたメモを見ていた。

数字の列とGという文字…

男はしばらくその意味を考えたがわからなかった。

本当にこの通りだったのか…

TVの配線ははずし、画面を強制的に砂嵐に…

だが、結局そこに先程のような書き取れるくらい鮮明なモノは映らなかった。

男はしばらくして眠気に襲われ眠ってしまった。

久々の休みということもあって、長い時間眠ってしまったようだ。まあたまにはいいだろう…。男は目を覚ますとすぐにTVをつけた。TVは砂嵐を映すことなく番組を映し出した。

ちよつと待て、今日はあの日じゃないか…。しまった寝すぎた。

男がいうあの日は、年に一度の競馬の大レースのことだった。

だが、映し出されるG1レースの配当を見て男の目は一気に覚めた。
三連単、5 - 12 - 8、1255000円

ちよつと待った。男はあのメモ書きを取り出しそこに書かれているものを逆にした。

G1・5 - 12 - 8

映っていたレース結果その通り、100円でも買っていればそれが125万に化けていたのだ。

やはり意味があった…

せつかくの神のお告げを…

男はすぐに配線を外しTVに砂嵐を映し出した。

だが、いくらその画面を眺めても、何も浮かんでこない。

男はそれから数日、可能な限り画面の砂嵐を見続けたが、それも意味はなかった。

さらに数日経って、男は普通にTVを見るため配線を戻した。

だが、画面は砂嵐のまま、男は何かに気づき画面を見た。

そこには、あのときのように文字が浮かび上がっていた。今度は英文のようだ。

男が文字を書き終わると、それを見ていたかのようにタイミングよ

く画面に番組が映った。

男はその文字を逆にし、書かれていた文の通りそれを実行した。その結果宝くじで1000万を手に入れた。

暮らしぶりは一変しデジタル対応TVも手に入れたが、

男は古いTVを大事にし、毎日目が覚めると古いTVをつけ、砂嵐が映されたときには画面から文字を探し出しそれを実行していった。

いつしか男は世界でも有数の大富豪になっており、

TVの啓示は必要ないほどの暮らしを送っていたが、相変わらず砂嵐が映し出すことが実際に起こるのを楽しんでいた。

だが、ある日、TVは砂嵐さえ映さなくなった。

男がTVを叩くと、砂嵐が映り文字が浮かんでくる。

（このTVの寿命がきている…私のために、この装置を作ってくれ）

TVはその言葉の後に膨大な量の文字を砂嵐の中に映し始めた。

それは何かの機械の設計図のようだが知識の無い男には全く理解できず、それを作らせた科学者達も、この装置で何が起こるのか、わからないらしい。

今日がTVの言うその日らしい、すでに装置は完成しており、あとは動かすだけだった。

私はTVの指示通り、その装置の椅子に座った。

科学者が装置を動かす、だが何が起こったのか、何も変化は無いようだ。

科学者が装置を止めると男は立ち上がり言った。

「何も起こらなかった…もういい、その装置は壊してくれ」

実験を終えた男は、世話係に命令した。

「あのTVを捨ててくれ」

「よろしいのですか？」

「ああ、もうあれは壊れたんでね」

「旦那様がそうおっしゃるなら」

何も起こらなかった。

男を知る人達はそう思っているだろう……、だが男は変わっていた。

（永かった…初めからこの体に入り込みこの世を楽しむつもりが、誤ってあのTVに入り出られなくなってしまったおかげで…）

了

（後書き）

短編は9作目

何というか、

自分でも読んだことのあるような単純な話に…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4076f/>

嵐の向こうに

2010年10月15日22時44分発行